

静岡市立の高等学校の設置に関する将来の方向性

1 要 旨

- ・静岡県内の高校生に必要なかつ十分な教育・学習機会を提供するため、静岡県は公立高校の大部分の供給責任を担っています。そのような中、静岡市としても一定の供給責任を担う必要があるとして、市立の高校を設置し、教育・学習機会の提供に努めてきました。
- ・しかし、少子化が進む現状において、供給量が過剰となりつつあるなか、供給責任の点では、静岡市の役割は減少してきています。
- ・その一方で、社会・教育環境が変化する中、教育の質の確保の点では、静岡市の役割は依然あると考えています。
- ・よって、このような現在の教育環境の変化と今後の動向を踏まえて、市立の高校の在り方について検討することとしました。
- ・2025年3月28日の記者会見において、検討の開始を公表して以降、有識者による「静岡市立の高等学校の在り方検討委員会」において計5回にわたり、静岡市独自の魅力ある高校の姿について議論が重ねられました。2026年2月、同委員会から「静岡市立の高等学校の在り方に関する提案書」が提出されました。
- ・この提案書をもとに、市として、市立高校の使命をこれまでの「量的提供」の責任を担うことから、静岡市独自の「質の高い学びの提供」へ進化させることとしました。
- ・静岡県が高校の全体数を減らす中で、静岡市も数を減らすという受動ではなく、市として、能動的に全体数を減らすことにも協力しつつ、独自に一つの学校を設置することとします。
- ・それを実現するため、中等教育学校（中高6年制、後期課程3年間は単位制）1校を設置する方針を定めました。現在の市立2高校の今後を含め、「新しい学校」の具体的な内容については、次年度から検討を加速します。
- ・なお、同委員会から提案された2つの設置形態（中高一貫校と単位制高校）について、2025年12月に、将来世代の小中学校の保護者にアンケート調査を実施し、約8,000人から回答を得ました。調査では、約9割の保護者が2つの設置形態について「十分候補になり得る」または「このような選択肢があってもよい」と回答しており、肯定的にとらえているという結果が得られています。

2 検討委員会からの提案書（提言内容） ※提案書の概要は別紙1参照

検討委員会からは、少子化が進行する厳しい現状を直視し、市立高校の使命を「量的供給」から「質的供給」へと進化させ、未来の静岡の創り手を育成するための具体的な在り方を示すものとして、以下の通り提言をいただきました。

(1) 使命の進化（「量的供給」から「質的供給」へ） 別紙1のI

人口減少社会が加速する現状を鑑み、市立高校の役割を「高等学校への進学の間を確保する量的供給」から、次代を担う「未来の静岡の創り手を育てる質的供給」へと進化

(2) 基本理念と基本方針 別紙1のII

本市の多様な特性を最大限に活かした独自の教育価値を創出し、県立や私立高校にはない魅力を備えた、生徒や保護者から「選ばれる学校」への転換

(3) 中核となる学び 別紙1のIII（上段）

多種多様な産業を有する本市の次代を創る人材を育成するため、「国際・グローバル」および「情報・理数」の学びを中核に据え、文理の枠を超えて新たな価値を創出する基盤となる「グローバルな視野」と「論理的な思考力」を育成

(4) 設置形態 別紙1のIII（下段）

基本理念および基本方針を実現するために有望な2つの設置形態を提案

- 中高一貫校
6年一貫の教育の提供により、【生徒の知的好奇心を深化】【発展的な挑戦の創出】【試行錯誤による自己形成】が可能となる
- 全日制単位制高校
自律的な学習機会の提供により、【主体的な学びの形成】【社会とつながる実践】【自律的な進路設計】が可能となる

3 提案書の提言に基づき、市として決定する「新しい学校」の方向性

検討委員会からの提言を受け、市立高校の使命を『他の公立高校・私立高校では提供していない静岡市独自の魅力ある教育の提供』とし、未来の静岡の創り手を育成するための「新しい学校」の具体的な方向性を以下の通り決めました。

なお、各回の検討委員会においては、委員会と事務局（市）が密に連携・情報共有を図りながら議論を積み上げてきたことから、基本的に検討委員会からの提案内容を市の方針として採用しています。

(1) 「新しい学校」における人材育成、学校像、中核となる学び

提案書の「基本理念」、「基本方針」、「新しい学校における学び」の提案内容を市の方針として採用します。 別紙1

(2) 「新しい学校」の設置形態 【提言を受け、市として新たに設定】

提案書では、基本理念および基本方針に基づく「新しい学校」を実現する際の最適な設置形態として、2（4）で示す利点により、「中高一貫校（主として中等教育学校、副として併設型中高一貫校）」と「単位制高校」が提案されました。

それを受け、市としては、以下の理由により、2つの設置形態を組み合わせた6年制中等教育学校（後期課程3年間は単位制）を設置することとしました。

【中高一貫校のうち、市として中等教育学校を選んだ理由】

中高一貫教育の形態は、主に「併設型（中学からの募集で入学した6年間学ぶ生徒と高校からの募集で3年間学ぶ生徒が混在する形）」と「中等教育学校（高校からの募集を行わず、6年間完全一貫で教育を行う形）」の2つに大別されます。

全生徒に6年間の継続的な教育を提供することで、基本理念の達成に不可欠な「教育課程の柔軟な編成」と「系統的な人材育成」を最大限に具現化できることから、中等教育学校を主とすることが望ましいとの提言がありました。市としてもこの考え方を尊重し、中等教育学校を選択しました。

【中等教育学校と単位制を組み合わせた理由】

中等教育学校の利点である「6年一貫教育の提供」および単位制の利点である「生徒の学びたいに応える学習環境の提供」の組み合わせが相乗効果を生むと考え、2つの設置形態を組み合わせることとしました。

①中等教育学校と単位制の組み合わせによる「理念」の実現

理念 静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人の育成

自らの強みを磨き上げるとともに、郷土愛を育む地域での活動を通じて、静岡の未来を切り拓く思いを持ち、行動できる人を育みます。

「卓越した強み」の育成

- 中等教育学校：
一貫性のある教育活動を提供できるため、生徒はそのなかで自分の強みを認識し、その強みを磨くことができます。
- 単位制：
強みや関心に合わせて科目を選択できるため、生徒は特定の分野を深く、主体的に学ぶことで、強みを卓越したレベルまで昇華させることができます。

「行動力」の育成

- 中等教育学校：
継続的な探究活動における試行錯誤を通じ、生徒は実社会に踏み出す思いと行動力を身に付けることができます。
- 単位制：
生徒は自ら学習計画を設計する過程を通じて、時間や環境を目的達成のために最適化し、自ら道を切り拓く実効的な意思と行動力を身に付けることができます。

②中等教育学校と単位制の組み合わせによる「中核となる学び」の効果的な実現

「国際・グローバル」の学び

- 中等教育学校：
継続的な海外連携による探究活動等を通じ、生徒は高い英語力に加え、多文化共生への深い理解と国際的な素養を身に付けることができます。
- 単位制：
専門的な語学演習等の選択履修を通じ、生徒は自らの進路に応じた実践的なコミュニケーション能力を身に付けることができます。

「情報・理数」の学び

- 中等教育学校：
継続的な実験（研究）や高校の学習の先取り等を通じ、生徒は科学的な証拠に基づき論理的に思考・分析する素養を身に付けることができます。
- 単位制：
多様な進路に応じた選択履修と起業家精神を育む学びを通じ、高度なICTスキルと新たな価値を創出する素養を身につけることができます。

（3） 将来の設置方向性 【提言および高校を取り巻く環境を踏まえ、市として校数を設定】

提言を踏まえ、将来の設置については、下記の理由から、「6年制中等教育学校（後期課程3年間は単位制）1校」を設置し、それに伴い市立2高校を再編することとしました。

【1校とする理由】

静岡市の15歳人口は、2024年3月末時点との比較で、2050年には約42%減少すると推計されています。今後示される静岡県の県立高校再編整備に係る動向や市内全域における生徒数に応じた適正な学校配置を考慮し、本市の限られた教育資源を1校に集中させることで、全国に誇れる質の高い教育を実現します。

《静岡市内公立高校》県教委によると2038年頃までに14校⇒10校程度に段階的集約

4 今後の進め方

2026年度より、静岡市教育委員会は、静岡県教育委員会との協議・調整を開始します。また、県が今後公表する公立高校の再編計画と歩調を合わせ、地域全体の教育環境の最適化を目指した「新しい学校」の具現に向けた検討に着手します。

下記の検討事項のうち、「校地」「開校時期」「募集定員」「移行計画」「使用しない校地の対応」については、2026年度を通じて集中的に議論を重ね、2027年3月を目途に具体的な方針を公表する予定です。

- 校地の選定：
地域との繋がりや施設環境の将来性を最大限に活かせる場所について検討します。

- 募集定員、開校時期、および移行計画（★）：
現在の高校と新しい学校が一定期間共存し、在校生が最後まで安心して充実した学校生活を送れるよう、円滑な移行計画について検討します。
- 教職員の最適な配置および育成体制（★）：
新しい教育課程を支える教職員の配置や、質の高い指導体制の構築について検討します。
- 校地として使用しなくなる高校の施設や跡地の利活用（★）：
それぞれの学校が地域の歴史を刻んできた大切な場所であることを踏まえ、地域に貢献する新たな価値の創出について検討します。
- 基本計画の策定、教育課程、学校行事、運営体制、その他施設面の修繕等：
中等教育学校としての特色を最大限に引き出すための具体的な運営基盤について検討します。

※ ★印の項目については、市としての方針を固めた上で、静岡県教育委員会と協議・調整を開始します。

静岡市の未来を担う子どもたちのために、これまでの延長線上ではない「新しい学校」の魅力を最大限に引き出す検討を加速していきます。

担当：教育局 教育総務課(054-354-2503)

静岡市立の高等学校の在り方に関する提案書(概要)

～未来の静岡の創り手の育成に向けて～

2026年2月

静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

I 背景と現状

・急速な少子化の進行

2040(R22): 約34%減少
2050(R32): 約42%減少 ※対R6比



- ・私立授業料無償化による公立離れの加速、全国的な再編統合
- ・市立2高校(清水桜が丘・静岡市立)ともに定員割れ等の厳しい状況

使命の進化

「量的な供給責任」

「質的な供給責任」

未来の静岡を創る人材を育成する
「選ばれる学校」への転換

III 「新しい静岡市立の学校」の姿

中核となる学び

～多種多様な産業を有する静岡市の次代を創る、グローバルな視野と論理的な思考力の育成～

国際・グローバル

情報・理数

方向性① 中高一貫校

6年一貫による 「時間的ゆとり」

【知的好奇心の深化(深める)】

受験のない時間を、文理の枠を超えた「探究活動」や興味ある学びの追求に充てる。

【発展的な挑戦の創出(広げる)】

先取り学習で生まれた時間で、海外研修や大学連携など高度な実践に挑戦する。

【試行錯誤による自己形成(育てる)】

6年間のゆとりの中で、失敗を恐れず自分の志や生き方をじっくり見つめ直す。

方向性② 全日制単位制高校

単位制による 「自律的な学習機会」

【主体的な学びの設計(選ぶ)】

主体的な履修計画の作成を通じて、自らの学びを調整・管理する力を養う。

【社会とつながる実践(試す)】

地域産業と直結した学びやインターシップを通じ、社会の課題に挑む。

【自律的な進路設計(切り拓く)】

確かな自己形成力を基盤に、自らの可能性を広げ、将来を切り拓く。

II 基本理念と基本方針

基本理念

静岡市に新たな価値を創出する、
卓越した強みと行動力を備えた人の育成

基本方針

- ① 未来の静岡の創り手を育む学校
地域と連携し、静岡の未来を自ら切り拓く志を持つ人材を育てる
- ② 生徒一人一人の強みを伸ばす学校
時間的なゆとりを生かした探究と自己決定により、創造力と行動力を磨く
- ③ 独自の価値を持つ学校
国際・理数を軸に、文理融合型の先進的で大胆な教育に挑戦する
- ④ 県全体の中核を担う学校
志高い生徒が集まる学校として、静岡の教育を牽引する

IV 実現に向けた意見・要望

在り方に関する市の迅速な方針決定と市民への丁寧な説明

教職員の配置に関する県への依存体制の抜本的な改革

市の地理的・人的リソースの活用による持続可能な連携体制の構築

魅力ある教育環境を実現するための積極的な投資

通いやすさへの配慮とわかりやすい進路実績の指標の提示

在校生及び教職員への配慮と県教育委員会との緊密な連携

中長期的(2040年頃まで)な視野をもった学びのデザイン